

働く



暮らす

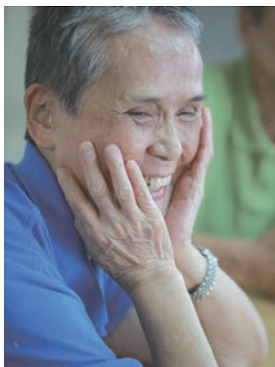


公益社団法人やどかりの里

1人1人が主人公



楽しむ



憩う



つながる



公益社団法人やどかりの里

理事長 増田一世

TEL : 048-686-0494

FAX : 048-747-7030

<https://www.yadokarinosato.org/>



photo by MIO KAKIUCHI

ごくあたりまえの生活を求めて

やどかりの里は「ごくあたりまえの生活の実現」を目指して、1970年から精神障害のある人と共に活動を進めてきました。活動開始から20年間は公的補助金がなく、財政的な危機を抱えていました。1990年に精神保健法（現在の精神保健福祉法）に基づく精神障害者社会復帰施設を開設し、現在ではさいたま市内に障害のある人の働く場6か所、グループホーム、地域活動支援センターと生活支援センター各3か所を運営しています。現在では約350人のメンバー（障害のある人）が、地域生活を送っています。

「1人1人が主人公」という活動理念のもと、互いの意見や考え方を尊重し、学習を大切に、話し合いに基づく創造的な活動を展開しています。障害や病気があっても「生きていてよかった」と実感できる地域づくりを目指し活動しています。

やどかりの里の歩み

- 1970年 大宮市七里（現さいたま市見沼区風渡野）で精神病院退院者の中間宿舎の活動を開始、その後中間宿舎は廃止。仲間づくりを大切に、社会への啓発活動を進める。（以降、1989年までは公的補助金がない中で事業を行う）
- 1973年 社団法人の認可
- 1988年 「保健文化賞」を受賞
- 1990年 精神障害者社会復帰施設を開設、以降さいたま市内に働く場、グループホーム、生活支援センター等を開設
- 1992年 「キワニス社会公益賞」を受賞
- 1999年 世界心理社会的リハビリテーション学会によって「ベスト・プラクティス」に選定
- 2011年 公益社団法人に移行、すべての事業所が障害者自立支援法に基づく事業に移行
- 2012年 第42回毎日社会福祉顕彰を受賞

ある日のやどかりの里

みなみハウス（グループホーム）の1日



8人のメンバーが暮らしています



定期的な保健師の健康チェック



日中は働く場やデイサービスへ外出



休みの日は入居者がリビングに集まり、おしゃべり



自分のペースで手作りの食事を食べられる幸せ

ピアサポーター 佐藤晃一さんの1日



やどかりの里の会員で、地域の様々な資源を使い暮らしています。法人理事としても活躍をしています

ピアサポーターの1日に密着!!



事業所のプログラムの準備中



一緒にウォーキング。時にはメンバーの相談相手にもなっています



スタッフとも相談しながら活動しています



✿ 晃一さんの想い

やどかりの里で活躍をしている先輩の姿を見て、ピアサポーターになろうと思いました。サポーターとして、自分が前に出るのではなく、相手の気持ちに寄り添うことを大切にしています。今ではとてもやりがいのある仕事だと感じています

やどかりMAP

暮らす

家族と、仲間と、1人で…
街のなかで”自分らしく暮らす”ことを支えます

- ①サポートステーションやどかり（見沼区）
- ②やどかりの里グループホーム
《相談》
- ③大宮区障害者生活支援センター
- ④見沼区障害者生活支援センター
- ⑤浦和区障害者生活支援センター

憩う

ふとした時、行けば必ず仲間がいる…
”安心して過ごせる場所”がここにはあります

- ⑪大宮中部活動支援センター（大宮区）
- ⑫大宮東部活動支援センター（見沼区）
- ⑬浦和活動支援センター（浦和区）

働く

いつも働くよろこびを感じていたい…
”生き生きと働く”

自分に合った働き方を選んでいきます

- ⑥喫茶ルポーズ（大宮区）
- ⑦あゆみ舎（大宮区）
- ⑧エンジュ（見沼区）
- ⑨すてあーず（見沼区）
- ⑩やどかり情報館（見沼区）

つながる

学び合い、話し合い、共に創り合う
”つながりを大切に”活動を広げています

- ☆浜砂会（家族会）
- ☆おやじの会
- ☆メンバー交流会議
- ☆やどかりミーティング（全体会議）
- ☆やどかりの里大バザー

楽しむ

仲間と楽しむ、仲間と挑戦する…
人生に彩りを加える”出会い”があります

- ☆やどかりFC（フットサル）
- ☆Stars&Dreamers
（やどかりコーラスバンド）





永遠に響け いのちの輝き

フランス民謡

作詞：やどかりの里



メンバーから寄せられた詩、ともに活動を築いてきたメンバーが語った言葉を紡いで歌詞にしました。病気や長期入院のためにあきらめることの多かったメンバーが、やどかりの里で仲間と出会い、自分らしい人生を歩んでいく姿をどこか懐かしいフランス民謡のメロディーに乗せて歌っています。

やどかりの里が目指すこと



やどかりの里と出会って人生が変わった人、笑顔が戻った人、自分らしさを取り戻した人、生き生きと生活できている仲間が1人でも増えていくことが、やどかりの里が目指してきたものです。これからも地域住民の支えも力にさらに発展させていきましょう。

(理事 土橋 敏孝)



親の願いは、親亡き後のメンバーへのサポートの充実です。また、入院中には見舞いや手紙などで、やどかりの里とつながっていることを実感できたり、メンバーがやどかりの里の法人会員になってよかったと実感できるやどかりの里にしたいですね。

(浜砂会 沼田 光子)



私はやどかりの里での活動を通じて多くの仲間に出会い、たくさんのことを学びました。日々、仲間と支え合いながら楽しく仕事をしています。1人でも多くの人が自分らしく生きていける、そんなやどかりの里を作っていきたいです。

(ピアサポーター 加藤 康士)



高度成長期に金とモノが幸せの基準になってから、人情は紙風船。

しかし、やどかりの里は、「かけがえのないもの」のつながりが幸せの基準。その灯を次の世代に手渡し、1人になっても幸せになれる地域を創造することを望みます。微力ながら協力していきます。

(おやじの会 天笠 明憲)



風通しよく話し合い、「1人1人が主人公」を大切に作るやどかりの里。誰もが安心して暮らせるように、この国に生まれてよかったと思える未来を描きながら活動したい。そして、近所の人たちには「あってよかった」と思ってもらえるような、「やどかりさん」でいて欲しいな。(職員 永瀬恵美子)



メンバーのプラスな部分を大切にする視点を持ち、生きづらさを補っていける環境を整えていきたい。そのためにやどかりの里が地域で展開していく活動を模索しつつ、地域資源とのつながりや住民との自然な連携のため、地域と支え合える関係になりたい。(職員 常盤 英佑)

公益社団法人やどかりの里は約 290 人の会員によって支えられています。